

科 目 名	リスクコミュニケーション／メディア対応演習		
学 期	A1A2 セメスタ	単位数	1.0 単位
曜日・授業時間	10月16日（水）（3，4限），11月13日（水）（3，4限），11月27日（水）（3，4限），12月11日（水）（3，4限），1月7日（火）（3，4限）		
場 所	原子力専攻講義室，オンライン講義室		
担当教員	斉藤拓巳（とりまとめ教員，saito@n.t.u-tokyo.ac.jp） 桑垣玲子 菖蒲順子 関谷直也 開沼 博 竹田宜人		
1. 本科目の目的と学習教育目標 「リスク認知とコミュニケーション」の講義において学んだ知識を踏まえた上で，特に将来のリーダーに求められる基本的スキルである，情報の収集能力，事例の分析能力，プレゼンテーション能力，ファシリテーション・コミュニケーション能力を身に付けることを目的とし，リスクコミュニケーションそしてメディア対応の演習を行う．			
2. 講義方法等 リスクコミュニケーション演習では，1）判断バイアスの自己分析，2）熟議のロールプレイ，を実施する． メディア対応演習では，具体的な状況をいくつか設定し，ビデオを活用し，対応の分析と全体討論を基本形として実施する． なお，演習日程は「リスク認知とコミュニケーション」と合わせて運用する．			
3. 専攻の学習・教育目標との関連 (1) 原子力技術分野に関する基礎的素養 講義で述べたヒューリスティックスと判断バイアスについて，履修者の実際の経験に基づき考察と発表を行い，各自のリスク判断能力を高める． (2) 原子力技術分野に関する高度の専門的知識及びこれを実務に応用できる能力 原子力に係るリスク問題について熟議のロールプレイ演習を行い，主催者，ステークホルダーの同定，インボルブメント方策，ファシリテーション方策などを実践するための能力を身につける．また，パブリックミーティングや通常時および緊急時対応の討議・演習を通して，コミュニケーションの基礎的スキルを身に付ける． (3) 原子力技術分野において，複合的な問題を分析し，課題を設定・解決できる卓越した能力 リスクコミュニケーションやメディア対応という社会と技術の界面で発生する複合問題に対して，「リスク認知とコミュニケーション」で身につけた基礎知識を元に，適切にアジェンダを設定し，実践できる能力を身につける． (4) 継続的に学習できる能力 A1A2 学期の「リスク認知とコミュニケーション」で得られた知識を定着させ，実践するために本演習が設計されている． また，リスクコミュニケーションには，様々なヒューマンファクターが関わっている．そのような点は，S1S2 セメスタの「ヒューマンファクター」が本講義と関係する．また，福島第一原子力発電所事故では，リスクコミュニケーション，特に，クライシスコミュニケーションが実践された訳だが，それらについては，A1S2 学期の「福島学」，「福島学演習」で学ぶことになるが，本演習を通して，それらを理解するための知識，能力を身につけることができる． (5) 原子力技術分野に関する実務を行うために必要な実践力，説明責任能力，コミュニケーション能力，協働力，マネジメント力など			

本講義では、原子力施設の運営管理、特に、事故時におけるリスクコミュニケーションを実践するための説明責任能力、コミュニケーション能力、マネジメント力を身につけることができる。

(6) 職業倫理、ならびにその倫理規範を守りつつ職務を果たす能力と態度

本講義を通して、原子力技術における職業倫理の実践において求められる、コミュニケーションに関する実践的理解を深めることができる。

4. 講義日程及び講義内容

I. リスクコミュニケーション演習

1・2回 判断バイアスに関する演習（10/16 午後）（野々瀬、桑垣）

講義で述べたヒューリスティックスと判断バイアスについて、自己及び属する集団として経験した事例を取り上げ、その状況・背景や判断の帰結及び教訓について考察、発表し、履修者全体での討議を通してリスク判断能力を高める。

3・4回 リスクコミュニケーションのデザイン演習（10/30 午後）（菖蒲、桑垣）

原子力のリスクコミュニケーション事例を題材に、利害関係者分析、対話の場の設計、メッセージ作成、想定 QA、評価ポイントなどをグループワークでデザインする。（作成したものをを用いて、5・6回のロールプレイング演習を行う）

5・6回 ロールプレイング演習（11/13 午後）（桑垣、菖蒲）

受け手と送り手のリスク認知、価値判断の違いを体験することで、原子力広報・地域対話活動におけるリスクコミュニケーション、原子力防災・緊急時に備えるコミュニケーションの重要さへの理解を深める。また、リスクコミュニケーションの手順、傾聴などのコミュニケーションのスキルの要点を学ぶ。

7・8回 福島第一 ALPS 処理水に関する説明・公聴会の評価演習（11/27 午後）（関谷）

受講生を3班に分ける。受講生は講義前までに福島第一 ALPS 処理水の取扱いに関する説明・公聴会（2018年8月30日富岡、31日郡山・東京）の録画を視聴、及び小委員会（第14・15回）議事録および意見への回答を通読しておく。その上で、各班において、説明・公聴会における資料・説明・進め方・意見への回答などの問題点について討議し、その概要を発表する。

II. メディア対応演習

① 福島第一原子力発電所事故、および、その後の廃炉、② 原子力防災を題材に、リスクコミュニケーション、メディア対応について考え、理解を深める。

9・10回メディア対応演習（12/11 午後）、（開沼）

「3.11後のリスクコミュニケーションの現場から」

住民を巻き込んだ対話の場の設計について検討し、発表と議論を通して、その効果について考える。

11・12回組織のリスクコミュニケーション活動の評価演習（1/7 午後）（竹田、桑垣）

受講生の所属元組織において実施されている内部での、及び外部とのリスクコミュニケーションの実例を取り上げ、それらの概要（背景、目的、対象者、体制、内容など）を説明した上で、講義で述べられた重要な考慮事項の観点から事例の問題点を洗い出し考察し、改善点をまとめ、発表する。これにより、リスクコミュニケーションの実態を振り返り、コミュニケーションの基本事項への理解を深める。

なお、原子力プラント見学を、本科目の授業の一部として位置付ける。

5. 教科書、参考書等

事前に配布する資料を用いて演習を行う。

6. 達成度の評価、成績評価の方法

各演習における報告書作成・成果発表・全体討論の状況で判定する。

7. 他の講義との関連

・ リスクコミュニケーション／メディア対応演習

- 福島学，福島学演習
- ヒューマンファクター
- 技術倫理演習